

会員 各位

ゴルフ場における「熱中症予防対策ガイドライン」について

一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会

拝啓 益々ご清栄の段お慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年は、春から秋まで連続で過去最高の平均気温を記録し、熱中症による死亡者数は年間1,000名を超える状況となりました。このような気候変動による異常気象や自然災害の被害を抑制することを目的に、2018年には「気候変動適応法」（以下、「適応法」）が制定され、企業には気候リスクマネジメントの実施、個人には気候変動への関心と理解を深めて熱中症などへの適応行動が求められることになりました。

そして、気候変動適応の一分野である熱中症対策を強化するため、「適応法」が改正されて本年4月1日より施行されました。

【主な改正点】

- * 「熱中症警戒アラート」が、熱中症警戒情報として法律に位置づけられた。
- * 熱波が広域に発生し、熱中症救急搬送者数の大量発生を招き、医療の提供に支障が生じる恐れがある場合に備え、一段上の「熱中症特別警戒アラート」が創設された。

「熱中症特別警戒アラート」の発表基準

都道府県内において、全ての暑さ指数情報提供地点における、翌日の最高暑さ指数（WBGT）が35に達する場合、都道府県単位で前日10時頃時点における翌日の予測値で判断し、前日14時頃に環境省から発表される。

尚、環境省は、「熱中症特別警戒アラート」の発表基準「全ての暑さ指数情報提供地点における最高暑さ指数（WBGT）35」は、過去に例のない危険な暑さと発表している。

熱中症予防は、個々人の予防行動による自助を原則とし、それを最大限に実践できるように、国、地方公共団体、事業者などが支援することとなっています。したがって、本ガイドラインは、ゴルファーと従業員の方々が、熱中症予防行動を実践するための情報入手をサポートすること、及び、ゴルフ場として熱中症予防対策の事前準備に資する目的で纏めました。

会員各位におかれましては、年々増大する気候変動リスクに対して、より一層慎重な予防対策の実施要請が強まっている状況にご理解を賜り、ゴルファーと従業員などとの相互理解によって、熱中症予防対策を講じて頂ければ幸甚に存じます。

敬具

ゴルフ場における「熱中症予防対策ガイドライン」

1. 「暑さ指数 (WBGT)」とスポーツ団体が発表している熱中症ガイドラインとの関係を理解する。

「暑さ指数 (WBGT)」とは？・・・熱中症を予防することを目的とした指標

「湿度、日射・輻射など周辺の熱環境、気温」の3つを取り入れた指標です。

(環境省：気温との混同を避けるために「暑さ指数」について単位の℃度を省略しています。)

「暑さ指数」別の熱中症ガイドライン

日本スポーツ協会 (JSP0) 「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」

「暑さ指数 31 (参考気温 35℃以上)」で「特別の場合以外は運動を中止」

関東ゴルフ連盟 (KGA) 「高温時における具体的な行動指針 (ガイドライン)」

「暑さ指数 33 以上 (参考気温 37℃以上)」で「一般来場者に対しても倶楽部競技でも、雷雲接近時と同様の対応をとり、来場者や競技参加者の安全を確保する」

環境省「熱中症特別警戒アラート」発表時の対応

「暑さ指数 35 以上」で、「事業者・イベント主催者は、全ての人が熱中症対策を徹底できているか確認。徹底できていない場合は、通勤・外出・イベントなどの中止、延期、変更などを判断」

現在、上記の考え方がスポーツ団体や政府から熱中症予防対策として発表されています。

- ・ どの段階の熱中症予防対策に対応するかを事前に決定し、徹底しておきましょう。
- ・ 熱中症予防は、個々人の予防行動による自助を原則としていますので、それを最大限に実践できるよう、本ガイドラインの活用により支援して頂ければと考えております。
よって、本ガイドラインでは、過度な規制とならないよう、深刻な健康被害が発生し得る場合に発表される「熱中症特別警戒アラート」での対応を検討して頂きたく、推奨します。

参考：2023 年「熱中症警戒アラート (暑さ指数 33)」の発表回数

発表地域：58 地域/58 地域 発表日数：64 日/183 日 延べ発表回数：1,232 回

2. 「熱中症予防」は、事前準備から！ (事前準備を依頼)

- ・ 急に熱くなった時が危険。暑熱順化が大切 (入浴・運動などで7日以上かけて汗をかく)
- ・ プレー前夜の寝不足は厳禁
- ・ 前夜のアルコール摂取は控えめに、プレー中も控えめに
- ・ 朝食はしっかり摂取
- ・ プレー時刻1時間前には、水分補給
- ・ スポーツドリンクを準備し、こまめな水分補給の習慣化
- ・ 服装は、透湿性・通気性の良い服装 (白色・黄色)
- ・ 帽子着用 (白・黄色がベター) の励行・日傘の利用
- ・ ドレスコードの緩和を検討 (シャツの裾出しを認める。△4度C効果)

3. 「熱中症」の初期症状を知り、自身の健康状態をチェックできるようにしておきましょう。
従業員には、自分自身、プレーヤー、職場の仲間の安全を確保することにも役立つことを徹底。

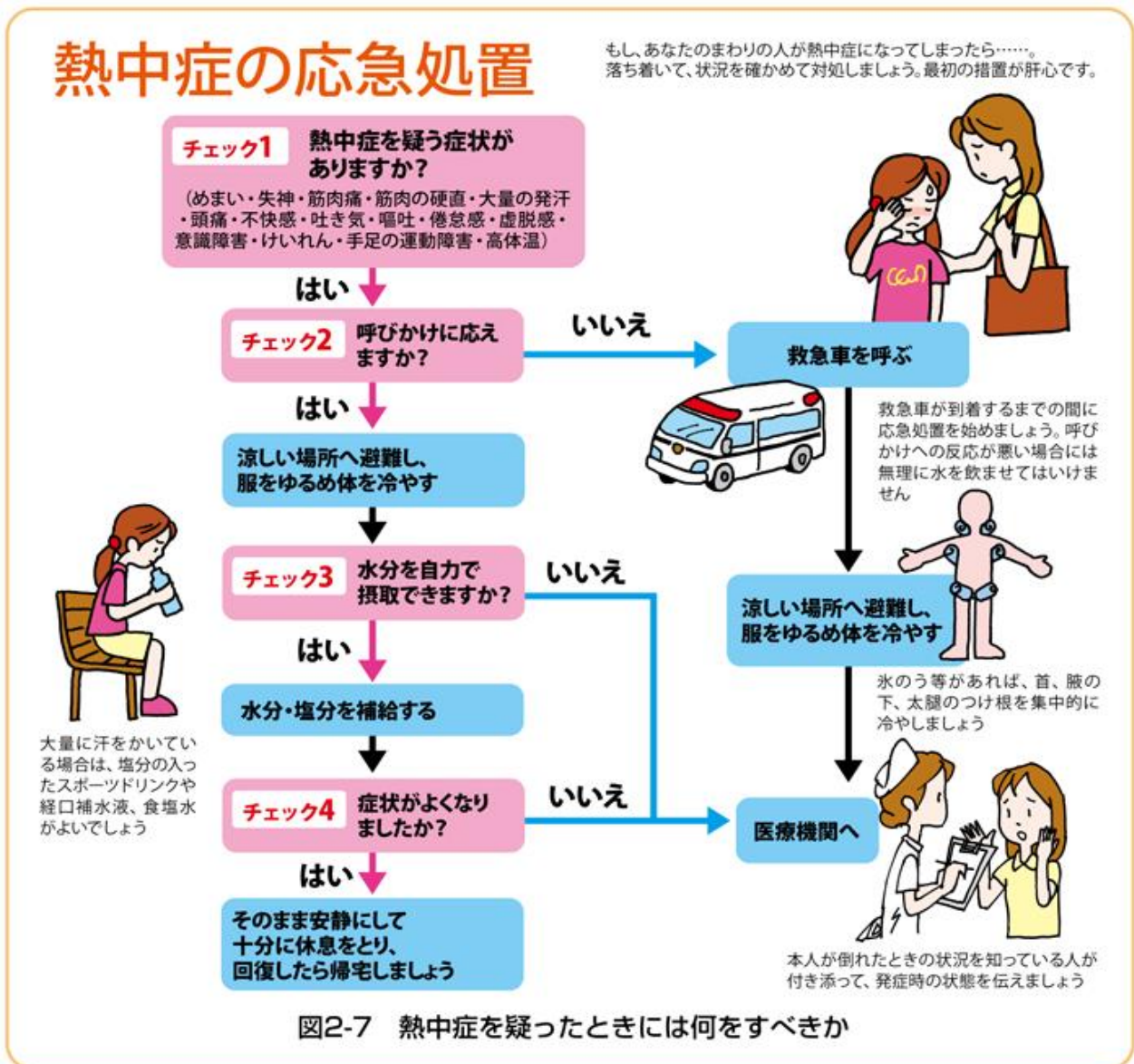
【応急処置と見守りが必要な状況】

めまい、立ちくらみ、生あくび、大量の発汗、筋肉痛、筋肉の硬直
体調に異変を感じたら、プレーや仕事を中止する勇気を持ちましょう。

【医療機関へ】

頭痛、嘔吐、倦怠感、集中力や判断力の低下

4. 「熱中症発生時」の現場で可能な対処方法を研修しておきましょう。



出典：環境省「熱中症環境保健マニュアル2018」p.24

身体冷却や水分補給可能な場所を事前準備し、告知しておきましょう。
(コース内は、コースレイアウト図に書込み表示すると分かりやすいです。)

身体全体を冷やすことができないときは？

手のひらを冷やす

腕まで冷やす

冷却材や冷たいペットボトルを握る

5. 従業員に熱中症に関する知識・対応方針の徹底を図り、プレーヤーへの拡散を目指す。

(1) 熱中症への理解度を高めるために知識の共有化

【前記1～4】の事項について、社内研修会を実施して共有化を図りましょう。

(2) 「暑さ指数」別の対応方針の理解度促進と共有化

自ゴルフ場としての方針を事前に明確化し、徹底しておきましょう。

(3) 熱中症事故発生時の緊急対応組織（社内）の明確化と徹底

*事前に指揮命令系統の徹底を図っておきましょう。

*必要事項のマニュアル化と共有化を徹底しておきましょう。

(4) 救急搬送が必要と判断された場合の連絡方法などの徹底と訓練を行っておきましょう。

(ゴルフ場内・外部連絡など)

(5) 現場対応時の準備・・・緊急時の持出し用備品の整備・救護室の事前準備

6. ゴルファーに対し、熱中症に関する知識及び対応方針の徹底を図る

・プレーヤーへ、「熱中症予防対策」の徹底を図る。

【前記2】について事前決定し、事前告知する。

【前記3】熱中症の初期症状などに関し、事前告知する。

「帽子（白・黄色）」着用の励行。 「ドレスコード」の緩和策の徹底。

危険や不安を感じた時は、プレー中断の勇気を持つことを要請しましょう。

・「暑熱避難場所（クーリングブレイク）」の設置と告知。

(コースレイアウト図に書込み表示すると分かりやすいです。)

・プレーヤーへの告知方法の決定。

ホームページ・会報・予約受付時などで、事前告知する。

クラブハウス・カート等にポスター掲示やリーフレットを設置する。

・プレーヤーへの協力依頼事項の決定と告知

プレー前の健康状態を自己診断して頂くことを依頼する。

こまめな水分補給・スポーツドリンクの準備・身体冷却グッズなどの準備を依頼。

・同伴プレーヤーへの気遣い・危険を感じたらパスさせることの習慣化等を徹底。

以上

参考：「熱中症に関する詳細情報」（1～6の詳細情報は、下記のサイトでも確認可能）

環境省熱中症予防情報サイト <https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt.php>

(サイトの主な内容)

* 「全国の暑さ指数」

* 熱中症特別警戒情報・熱中症警戒情報

* 暑さ指数（WBGT）について

* 熱中症対策

* 普及啓発用資料

(予防行動を呼び掛けるポスター・アラート用ポスター・各種リーフレット等の見本)